

同窓会会報

第71号

平成13年8月1日
 発行所 茨城県 茨城郡
 内原町 鯉淵 5965
 鯉淵学園同窓会
 〒319-0323 TEL029-259-2811
 振替口座 宇都宮 3-1632 番
 印刷所 印刷
 (印) 双 葉

ご挨拶

同窓会長 高橋 隆三

会報70号でお願い致しました鯉淵学園(以下学園)の「調査・試験研究事業」支援の寄付について、五月末現在、二二〇名の会員各位から二二万円を超えるご寄付がございました。本当に有難うございました。学園からは、卒業生の厚意に報いるべく学園長以下総力をあげて計画的に取り組むとの報告と感謝の言葉を受けております。

農民教育協会の財政を支える農業団体等からの寄付金について、免税優遇措置が取られる「特定公益法人」の認可を受けること(認可の条件・試験研究について広く一般人の支援を受ける)が必要条件です。理事長、学園長からも引き続き支援の要請がありましたので皆様のご協力をお願い申し上げます。

去る四月四日、招かれて学園入学式に出席しました。会場の体育館兼講堂に入ると、正面のステージに向かって、フロアの左側には茨城県知事代理、内原町町長をはじめ二十名強の来賓、右側には対称的に協会の

理事長を以下約四〇名学園教職員、中央の前の方は新入生九一名(三年編入八名含む)、続いて在校生が三〇名前後、最後尾には新入生数を上回る父兄が着席して式が行われました。

近年の入学式の特徴は、来賓と新入生父兄の参列者が多いことで、新入生に寄せる期待の大きさがうかがえます。

本年度の新入生数は八三名で、定員充足率は七〇%です。平成十年度から毎年一〇名程度づつ減少しています。

六月八日に開催された農民教育協会理事會では、学生獲得競争が熾烈で、学園も「真冬の時代」を迎えたとの報告がなされました。

今後の取り組みとして、定員充足率八〇%以上を目指すことはもとより、具体的方策として、次の二点が示されました。一、授業料の値上げ(値上げ額三万円)二、期末手当等人件費について、削減案を提示し、了解を得るよう努める。平成十三年度の予算書には、財政調整基金から二五〇〇万円の繰り入れが盛り

込まれており、今後の入学生数如何によって厳しい財政運営が予想されます。学園の建学の精神に行学一致がありま

れており、更に、平成十四年度からは「農業体験学習支援事業」(新規事業、小中学校生の食料・農業体験学習)も始まることから、これらに携わる担当者の役割は重く、全学あげて取り組む必要があるでしょう。

農場一三・五ヘクタールの計一三・五haで、学生一人当たり約五aになります。

学園の教育方針の中に「全国にある卒業生を中心とする活動組織と連絡を緊密にしなが

を差し引くと六〇〇aになり、一人当りにすると一a強にしかありません。

の道を探求する」が掲げられております。学園を維持発展させるためには、学園と本会とが緊密な連携を図り、会員各位のご支援ご協力が不可欠です。

つまり、体験する実習から見る実習に変化しているのではないかと心配しています。

今後とも、本会の会費納入も含めよろしくご理解を賜りますようお願い申し上げます。

第二十五回同窓会大会開催のご案内

十一月三日(文化の日)に開催

当日は学園祭も行われています。(多数の出席を期待します)

六月二日、同窓会館において開催された常任委員・監事合同会議において、第二十五回定期大会を十一月三日に開催することを決めました。

なお、大会出席率が低い理由として、大会運営に工夫が足りないのではないかとのご指摘もありますので、今回は希望者に対して学園施設の案内や大会終了後の懇談会に加えて、宿泊される方には安くてゆっくり談笑できる公共の宿でくつろいでいただき、思いでに残る大会にしたいと考えております。

今回の大会から代議員資格の明確化とスリム化をはかるため、第二十四回大会において会則を改正いたしました。遠距離支部の皆様方には大変ご足労をかけますが、学園の将来を占う意義深い大会ですので、支部・同期生お誘いのうえ是非ご出席賜りますようお願い申し上げます。

(宿泊費は自己負担)

つきましては、今後の大会の参考にしたので、今回の大会に出席されない方で大会運営についてご意見のある方は、ハガキにてご一報ください。

【第二十五回大会日程】

開催日 平成十三年 十一月三日(日)

文化の日

会場 鯉淵学園第五番教室

受付 十三時～

大会 十三時三十分～

常任委員会 十六時～

懇親会 十六時三十分～

※希望者は十時三十分から学園施設を案内します(講堂前出発)

(ハガキ様式)

十一月三日開催)において次のとおり会則第十条の改正が行われた。

第25回大会に
出席 欠席 します
支部 期
住所
氏名
11/3 宿泊 有 無
◇大会運営について意見があればの記入ください(欠席者のみ)
◇近況等

- 【大会議事】
- 一、報告事項
- (1)平成十二・十三年度事業報告
 - (2)平成十二・十三年度決算報告
 - (3)平成十二・十三年度監査報告
 - (4)その他
- 二、協議事項
- (1)平成十二・十三年度事業および決算ならびに監査報告承認について
 - (2)平成十四・十五年度事業計画ならびに予算について
 - (3)学生募集の支援について
 - (4)その他

【大会運営】

大会運営に関する代議員選出については第二十四回大会(平成十一年

現 行	旧
代議員は、各都道府県支部長および支部会員が50名を越えたとき50名毎に1名を選出する。ただし、大会出席会員は代議員とみなす。	代議員は、各都道府県支部1名および支部会員が20名を越えたときは、会員20名毎に1名を選出する。

常任委員会報告

六月二日午後一時から同窓会館において常任委員会が開催されました。学園からも宍戸学園長のほか安藤・杉山両教授が、農民教育協会から木村常務が出席し、本年度入学生減少の原因と学園としての対策について説明があり同窓会に対して学生募集の協力要請がありました。

(議題)

一、報告事項

- (1)十二年度卒業生の就職状況と十三年度新入生の入学状況
- (2)学園と同窓会の近況
- (3)同窓会費・協会寄付の入金状況
- (4)福島啓史郎氏の署名状況

二、協議事項

- (1)第二十五回定期大会開催について
日程は十一月三日とし、その他については開催要領のとおり決定した。
- (2)学生募集の支援について
○学園・同窓会一体で取り組むこととし、支部総会には必ず出席して学生募集を強く要請する。

過去に多くの学生を送り込んできた県または高校には同窓生と一緒に訪問するのとみに遠距離の地域(鹿児島など)については受験場所を設ける。

○会報とは別個に支部長あて学生募集の協力要請文を発送する。

(3)同窓会報(第71号)の発行について

前大会の前には大会特集号を発行したが、予算の関係上特集号は発行せず、今回発行の第71号に掲載する。

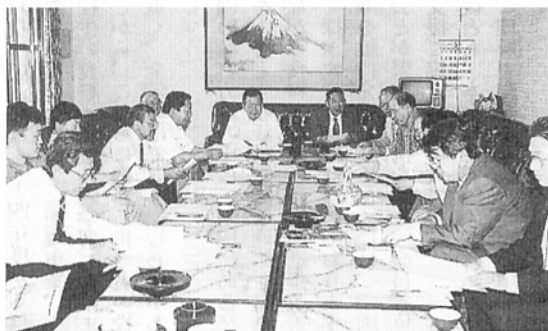
字が小さくて読み辛いとの意見もあるので、従来のB5版をA4版とする方向で検討する。

(4)分収林事業の経過と管理について

四十周年事業としてスタートした経緯があり、益子さん(14期)の指導により近隣の分収林に比較すると整備されているが、四十五年先の伐採時における林木代金で毎年度(二年)五〇万円の管理費支出が賅われる可能性は極めて低い。

鯉淵学園は農業専門学校として学生の教育に役立たせる、水資源の確保、国土保全など、ある程度は採算を度外視しても今後も益子さんの指導と協力を得て継続して管理する事とした。

管理助成金については、九月中に常陸太田森林管理所と協議することとした。



「研究活動支援へのお礼と再度のお願い」

学園長 末戸 弘明

農民教育協会寄付名簿

○数字は卒期、括弧数字は通信過程卒期です。

前々回の同窓会報第69号に「学園での研究活動の強化と寄付のお願い」と題した小文を掲載していただきました。その趣旨は学園での研究の必要性で、基本的には教職員（農場職員を含めて）が研究を通して学術的あるいは技術的なレベルの向上を図ることが、教育の向上につながるということですが、研究というと、すぐ世界的な最先端の研究を思い浮かべがちになりますが、さまざまなタイプの研究があることはお分かりかと思えます。一寸した創意工夫が大きな成果を生むことを皆さま方はこれまでの経験からご承知だと思えます。そうした姿勢こそが研究の原動力になるのです。

学園の研究活動に関していえば、もう一つの要素があります。経営母体の農民教育協会が「特定公益増進法人」に指定されていることで、指定の継続要件に研究活動があるからです。詳細は繰り返しません。会報第69号をご参照ください。前回のお願い以降、高橋会長を始め同窓会の皆様から多額の寄付金が寄せられてきました。平成十三年五月末までに団体、企業、個人から寄せられた寄付金の総額は三〇八万、五〇〇円になります。その内、同窓会の皆様からの寄付金は約七〇％に当たる二二二万、五〇〇円（二二〇件）に達します。

私どもが予期しないほどの高額の寄付金です。寄せられた多くの皆様にお礼の言葉もありません。余談ですが、鯉淵学園教育研究報告の巻頭言の「節に」にしても同窓生の母校を思う気持ちの強さを改めて教えられたのである。と記したのは、偽りのない気持ちの表れです。さて、この寄付金の使い方ですが、学園では別項で説明していますように「環境保全・循環型持続的農業の確立のための実践的総合研究」という学内挙げてのプロジェクト研究を今年度からスタートさせています。この研究を中心に寄付金を使わせていただこうと考えています。その研究期間は四、五年と見込まれていますので、とりあえず十三年度の共通研究費として七〇万円を支出し、残額を次年度以降に配分することになっています。皆様方のご好意を無にしないよう、職員、同窓の趣旨に添って励み、また当然のことながら、この研究から生まれた成果は毎年「鯉淵学園教育研究報告」などを通して、皆様にお知らせいたします。再度お礼申し上げます。この寄付へのお礼は引き続き行っていますので、これからもよろしくお願い申し上げます。

- | | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| ① 梅田 明人 | ① 飯岡 幸男 | ① 飯岡 幸男 | ① 飯岡 幸男 |
| ② 山田 直人 | ② 高橋 昭二 | ② 高橋 昭二 | ② 高橋 昭二 |
| ③ 福家 正直 | ③ 遠山 耕二 | ③ 遠山 耕二 | ③ 遠山 耕二 |
| ④ 塚本 良浩 | ④ 立見 祐次 | ④ 立見 祐次 | ④ 立見 祐次 |
| ⑤ 吉田 美穂子 | ⑤ 真野 量 | ⑤ 真野 量 | ⑤ 真野 量 |
| ⑥ 宿谷 貴博 | ⑥ 篠崎 芳三 | ⑥ 篠崎 芳三 | ⑥ 篠崎 芳三 |
| ⑦ 山崎 政治 | ⑦ 栗原 満史 | ⑦ 栗原 満史 | ⑦ 栗原 満史 |
| ⑧ 佐美智雄 | ⑧ 高橋 隆三 | ⑧ 高橋 隆三 | ⑧ 高橋 隆三 |
| ⑨ 山田 知幸 | ⑨ 藤田 紀美江 | ⑨ 藤田 紀美江 | ⑨ 藤田 紀美江 |
| ⑩ 守谷 高雄 | ⑩ 小沼 弘一 | ⑩ 小沼 弘一 | ⑩ 小沼 弘一 |
| ⑪ 杉本文 午 | ⑪ 武田 昌志 | ⑪ 武田 昌志 | ⑪ 武田 昌志 |
| ⑫ 鈴木 豊實 | ⑫ 佐藤 勲 | ⑫ 佐藤 勲 | ⑫ 佐藤 勲 |
| ⑬ 阿部 香 | ⑬ 樋渡 史江 | ⑬ 樋渡 史江 | ⑬ 樋渡 史江 |
| ⑭ 松本 照雄 | ⑭ 鈴木 子 | ⑭ 鈴木 子 | ⑭ 鈴木 子 |
| ⑮ 千葉 照雄 | ⑮ 飯岡 幸男 | ⑮ 飯岡 幸男 | ⑮ 飯岡 幸男 |
| ⑯ 吉田 保治 | ⑯ 高橋 昭二 | ⑯ 高橋 昭二 | ⑯ 高橋 昭二 |
| ⑰ 上澤 利郎 | ⑰ 遠山 耕二 | ⑰ 遠山 耕二 | ⑰ 遠山 耕二 |
| ⑱ 菅原 直吉 | ⑱ 立見 祐次 | ⑱ 立見 祐次 | ⑱ 立見 祐次 |
| ⑲ 菅原 直吉 | ⑲ 篠崎 芳三 | ⑲ 篠崎 芳三 | ⑲ 篠崎 芳三 |
| ⑳ 横山 武美 | ⑳ 栗原 満史 | ⑳ 栗原 満史 | ⑳ 栗原 満史 |
| ㉑ 佐藤 和年 | ㉑ 高橋 隆三 | ㉑ 高橋 隆三 | ㉑ 高橋 隆三 |
| ㉒ 鎌田 卓 | ㉒ 藤田 紀美江 | ㉒ 藤田 紀美江 | ㉒ 藤田 紀美江 |
| ㉓ 佐野 和男 | ㉓ 高橋 隆三 | ㉓ 高橋 隆三 | ㉓ 高橋 隆三 |
| ㉔ 佐野 和男 | ㉔ 藤田 紀美江 | ㉔ 藤田 紀美江 | ㉔ 藤田 紀美江 |
| ㉕ 佐野 和男 | ㉕ 高橋 隆三 | ㉕ 高橋 隆三 | ㉕ 高橋 隆三 |
| ㉖ 佐野 和男 | ㉖ 藤田 紀美江 | ㉖ 藤田 紀美江 | ㉖ 藤田 紀美江 |
| ㉗ 佐野 和男 | ㉗ 高橋 隆三 | ㉗ 高橋 隆三 | ㉗ 高橋 隆三 |
| ㉘ 佐野 和男 | ㉘ 藤田 紀美江 | ㉘ 藤田 紀美江 | ㉘ 藤田 紀美江 |
| ㉙ 佐野 和男 | ㉙ 高橋 隆三 | ㉙ 高橋 隆三 | ㉙ 高橋 隆三 |
| ㉚ 佐野 和男 | ㉚ 藤田 紀美江 | ㉚ 藤田 紀美江 | ㉚ 藤田 紀美江 |
| ㉛ 佐野 和男 | ㉛ 高橋 隆三 | ㉛ 高橋 隆三 | ㉛ 高橋 隆三 |
| ㉜ 佐野 和男 | ㉜ 藤田 紀美江 | ㉜ 藤田 紀美江 | ㉜ 藤田 紀美江 |
| ㉝ 佐野 和男 | ㉝ 高橋 隆三 | ㉝ 高橋 隆三 | ㉝ 高橋 隆三 |
| ㉞ 佐野 和男 | ㉞ 藤田 紀美江 | ㉞ 藤田 紀美江 | ㉞ 藤田 紀美江 |
| ㉟ 佐野 和男 | ㉟ 高橋 隆三 | ㉟ 高橋 隆三 | ㉟ 高橋 隆三 |
| ㊱ 佐野 和男 | ㊱ 藤田 紀美江 | ㊱ 藤田 紀美江 | ㊱ 藤田 紀美江 |
| ㊲ 佐野 和男 | ㊲ 高橋 隆三 | ㊲ 高橋 隆三 | ㊲ 高橋 隆三 |
| ㊳ 佐野 和男 | ㊳ 藤田 紀美江 | ㊳ 藤田 紀美江 | ㊳ 藤田 紀美江 |
| ㊴ 佐野 和男 | ㊴ 高橋 隆三 | ㊴ 高橋 隆三 | ㊴ 高橋 隆三 |
| ㊵ 佐野 和男 | ㊵ 藤田 紀美江 | ㊵ 藤田 紀美江 | ㊵ 藤田 紀美江 |
| ㊶ 佐野 和男 | ㊶ 高橋 隆三 | ㊶ 高橋 隆三 | ㊶ 高橋 隆三 |
| ㊷ 佐野 和男 | ㊷ 藤田 紀美江 | ㊷ 藤田 紀美江 | ㊷ 藤田 紀美江 |
| ㊸ 佐野 和男 | ㊸ 高橋 隆三 | ㊸ 高橋 隆三 | ㊸ 高橋 隆三 |
| ㊹ 佐野 和男 | ㊹ 藤田 紀美江 | ㊹ 藤田 紀美江 | ㊹ 藤田 紀美江 |
| ㊺ 佐野 和男 | ㊺ 高橋 隆三 | ㊺ 高橋 隆三 | ㊺ 高橋 隆三 |
| ㊻ 佐野 和男 | ㊻ 藤田 紀美江 | ㊻ 藤田 紀美江 | ㊻ 藤田 紀美江 |
| ㊼ 佐野 和男 | ㊼ 高橋 隆三 | ㊼ 高橋 隆三 | ㊼ 高橋 隆三 |
| ㊽ 佐野 和男 | ㊽ 藤田 紀美江 | ㊽ 藤田 紀美江 | ㊽ 藤田 紀美江 |
| ㊾ 佐野 和男 | ㊾ 高橋 隆三 | ㊾ 高橋 隆三 | ㊾ 高橋 隆三 |
| ㊿ 佐野 和男 | ㊿ 藤田 紀美江 | ㊿ 藤田 紀美江 | ㊿ 藤田 紀美江 |

②⑦ 吉野 山本美喜子
 ③ 富山県 伊澤文也
 ④ 高橋利也
 ⑤ 行田喜佐一
 ⑥ 大平勝則
 ⑦ 甲斐藤稔
 ⑧ 佐藤定一
 ⑨ 伊藤新哉
 ⑩ 南雲重雄
 ⑪ 涌井黒藏
 ⑫ 石黒勇蔵
 ⑬ 斎藤喜代治
 ⑭ 水戸部幸一
 【新潟県】 ⑮ 能篠則宏
 ⑯ ⑪ 神奈川県 鈴木昭司
 ⑰ 大原俊雄
 ⑱ 元水眞澄
 ⑲ 植田晴男
 ⑳ 森安一夫
 【東京都】 ㉓ 押田敏男
 ㉔ 押田昌幸
 ㉕ 小出文子
 ⑲ 斎藤常夫
 ⑳ 川原富夫
 【千葉県】 (2) 井上幸吉
 ⑳ 山崎幸夫
 ㉔ 栗原純枝

③ ① 渡辺悦次郎
 【愛知県】 ⑯ 古瀬敏男
 ⑭ 栗林康彦
 ⑬ 原崎充弘
 ⑩ 樋口英世
 ⑦ 松井克幸
 ⑤ 間宮善衛
 ③ 大石道夫
 ② 大関実
 【静岡県】 (5) 桑原義道
 ③ 松永晴夫
 【岐阜県】 ㉒ 鈴木一成
 ㉑ 飯塚ひろ子
 ㉐ 湯口康章
 ⑭ 平林秀夫
 ⑩ 長崎光悦
 ⑩ 小祝とし子
 ⑤ 峯村幸徳
 ④ 関正治
 【長野県】 ⑯ 河内雅幸
 【山梨県】 ⑳ 堀川博司
 ㉑ 安実正嗣
 ㉒ 畠中喜太夫
 ㉓ 熊谷義宣
 ㉔ 森谷勲
 ⑱ 佐藤徳栄
 【福井県】 ㉐ 北口彬
 ㉑ 坂下才信
 【石川県】 ㉒ 坂下彬

⑳ ⑫ 勝部誠毅
 【島根県】 ㉒ 梨本則三
 ⑪ 盛山和夫
 ⑩ 平木郁夫
 【鳥取県】 ④ 伊福靖
 【和歌山県】 ㉒ 武田れい子
 【奈良県】 (1) 井寄照敏
 ⑤⑩ 前川裕志
 ⑬ 近本昌博
 ⑭ 岸根秀明
 ⑩ 奥田和夫
 ③ 堀端俊造
 【兵庫県】 ⑤⑩ 八木章宏
 ⑮ 上地もり子
 ⑨ 山下重治
 ⑥ 折戸秋男
 ② 北島隆
 【大阪府】 (1) 森村洋一
 ⑱ 竹村裕章
 ② 金田裕章
 【京都府】 ⑤ 塚本賢次
 【滋賀県】 ⑤ 花井巳代治
 ① 本庄英一
 【三重県】 ㉒ 長坂幸治
 ⑩ 雨宮善暢

⑮ 湯浅紀久子
 【宮崎県】 ⑥ 川崎兵吾
 ④ 安倍吾
 【大分県】 ⑬ 那須尚良
 ⑲ 岩下美
 【熊本県】 (4) 渡辺秋利
 【長崎県】 ⑳ 大曲栄治
 ⑧ 原口豊治
 【佐賀県】 ③ 村田芳郎
 【福岡県】 ㉑ 上甲修三
 【愛媛県】 ⑤ 仙波岩巳
 ④ 和田久夫
 【香川県】 ㉓ 福島啓子
 ④ 原隆雄
 ① 坂本太郎
 【徳島県】 ⑮ 木村勲
 ⑪ 野村孝三
 ④ 松永武之純
 ③ 金子純
 ② 梅下巖
 【山口県】 ⑨ 益田正雄
 ③ 鎌倉功
 【広島県】 (2) 長野和夫
 (1) 杉原弘久

藤村純一郎
 中村敬二
 竹内高穂
 小川小石二
 野原重治
 豊田重雄
 柴賀睦男
 志賀昭八
 佐藤重夫
 倉重博海
 大武克也
 大吹正美
 矢田清次
 沖田敏男
 神永浩義
 早川一春
 佐藤周弘
 長谷川周弘
 【十一期生の集い】 ⑯ 宮城明生
 ⑭ 宮平朝浩
 ⑮ 平儀実信
 ⑯ 与里信子
 ⑰ 宮里一郎
 ⑱ 宮平三郎
 【沖縄県】 ㉑ 野上イク子
 ㉒ 川尻重廣
 ⑩ 中原義勝
 ⑩ 平野勝徳
 ⑦ 中島徳
 【鹿児島県】 ㉑ 矢野弘昭
 ⑰ 三角巖

【賛助】



池田フチ子
 池田興一
 鈴木昭司
 吉谷富美子
 加藤定子
 鹿又ワカ
 篠原久子
 三原えい子
 野口美千代
 中野重雄
 加茂孝夫
 野頭孝三郎
 神田雄太郎
 小島好文
 公庄達一
 岸本久一郎
 加瀬岑雄
 枝並春男
 宮地勉
 阿部剛
 駒崎稔

学園卒業生の新しい国家公務員任用資格

— 四年制大学卒業者と認定される —

教務部長 安藤 義道

平成十二年三月二十日付け人事院事務局長から農林水産事務次官宛で、「給実甲第三二六号の一部改正について（通知）」の文書が届きました。中味は「人事院規則九一八（初任給、昇格、昇級等の基準）」で、この別表の甲表「学歴免許等の区分」の大学四卒の(5)に「鯉淵学園専門課程（修業年限四年のものに限る。）の卒業」が書き加えられたというものでした。平成七年七月十二日に分厚い書類を提出して六年目、ようやく学園の四年制度が社

会的にも四年制大学と同等と認められたと思いました。

このことがもつ意味には大きいものがあります。まず、これによって学園は少なくとも人事院の格付け上、防衛大学校や水産大学校の卒業生と同等になったということですが、また、かつての短大三卒もそうでしたが、専門学校でこの中に扱われているのは学園だけということになります。国家公務員の給与、昇格、昇級について定める学歴免許等資格区分表で、

「鯉淵学園」という名前が記載されているということは、少なくとも公務員関係の人事担当者には学園の存在が周知されることになったということです。

これというのものとえに卒業生のみならずの努力があったからでした。求められた資料に応えられるだけの実績が蓄えられていたからでした。今後は、在学生にこの規則が適用になります。みんな学園の教育レベルが四年制大学と同じだと胸をはることができます。願わくばこれを契機に、同窓生や知人・友人の子弟がこのことによって、人でも多く学園に志願をして頂ければ幸いです。

進路指導協力員の 人選お願いの件

財団法人農民教育協会
鯉淵学園学園長

宋戸 弘明

毎々学園の教育には多大なるご協力を頂き厚く御礼申し上げます。

学園構内の緑は連日の雨模様で緑が大変美しく卒業生の皆様方にこの美しさをお届けしたい気持ちで一杯です。

さて卒業年次の四年生は連日就職活動に頑張っておる今日この頃ですが、ご承知のように全国から来ております関係上、活動が芳しくありません。これを解消する目的で、一九九九年に学園から同窓会に進路指導に関する協力要請をお願いする事になり各都道府県ごとに協力員を委嘱して、各地域の情報を収集の上、就職活動を支援して参りました。協力員の任期は二年です。御活躍頂きました平成十一年度の協力員の任期が終了致しましたので新たに平成十三年、十四年度の協力員の推薦をお願い申し上げたく本日ここに文書を発送している次第です。

お忙しいところ申し訳ありませんが、後輩達のためにご協力お願いいたします。今後ともご指導の程宜しくお願いいたします。

学生募集に対する学園側の取り組み方

財団法人農民教育協会鯉淵学園企画渉外係

はじめに

近年は少子化による十八才人口の減少から大学、短大、専門学校は定員割れに陥っている。当学園でも近年は入学者数の減少が続いている。よって平成十二年五月に教務委員会で学生募集対策委員会が発足が提案され、教授会の議を経て、学園として社会的現状を十分認識した上で、将来を予測し、成果の得る学生募集対策を委員会で検討する事にし委員を九名（委員長 山下作物・園芸コース科長 選出し会合を開き下記の募集方法と入学試験について提案（平成十二年一月）された。

一、募集方法について

- (1) オープンキャンパス（体験学習・見学会）の実施
平成十二年八月二十四日（金）午前十一時から午後三時まで
・情報機器の有効的活用
・ホームページの活用
・効果的リンクの構築
- (2) 学園同窓会の協力依頼と関係強化（同窓会組織の活用）
支部役員への協力要請
- (3) 高等学校との連携
入学実績のある高校を重点校として選定し、人的繋がりをもつ

二、入試方法について

- (1) 現地入学試験の導入
平成十三年十二月二十二日 鹿兒島市で入試実施
- (2) 業界関連誌を活用しPRする
- (3) 以上の学生募集対策委員会のとりまとめた提案を受けて、学園全職員で年中取り組まねばならぬ重大業務であると決意を新たに、さらに学園として入試委員会と企画渉外係が協同で学生募集委員会を立ち上げ委員長に宋戸学園長がなり、学生募集に邁進しているところで、同窓会の皆様どうかお知り合いに農業や栄達の勉強をし、さらに資格を取得したい若者がありましたら是非紹介してください。お願いいたします。

会員名簿作成協力依頼

同窓会会員名簿は、卒業による加入・結婚による姓や住所の変更・転勤による住所勤務先の変更および死亡等で内容が変わりますので、五年毎に作成しております。現在の名簿は平成九年に作成のもので、今度の作成は平成十四年七月となります。会報70号は六、三〇〇部発送しましたが、そのうち住所不明で六八部（一・八％）が返送されました。

近日中に名簿作成のため住所・電話・職業の確認依頼書を送付致しますのでご協力をお願い致します。

なお、正確な名簿を作成するため確認依頼書が返送されない方には恐縮ですが再度お願いすることになりますので、特種な事情のない限り最初の通知で確認できませうご協力をお願いします。

支部・同期の動向

支部だより

茨城支部長 倉重 一夫

期別代議員の推薦について

茨城支部定期総会は平成十年から期別代議員により総会を開催しております。代議員の選任は平成十年、支部役員によって推薦され、会員の承認により決定させていただき現在もその代議員は継続されております。

平成十三年に期別代議員を変更される場合は、それぞれの期別毎に代議員を選任し報告願います。変更報告が無い場合は、あと二期継続して代議員をお願いいたします。

報告月日、平成十三年十月一日まで支部長まで連絡下さい。

又、新たに同窓会に加わった53期生。

54期生の代議員は左記の通り役員会で推薦されましたので期別の皆さんは了承下さいますと共に、推薦された代議員は承諾下さいますようお願いいたします。

第53期生代議員 酒井篤史
第54期生代議員 田所英教

茨城支部総会の開催について

茨城支部総会は、十一月三日午前十一時から開催を予定しています。この総会は十一月三日午後開催される第二十五回鯉淵学園同窓会大会の前段

に支部総会を開催する計画にしています。代議員の皆さんはご多用の所恐縮ですが万障差し繰り出席下さいませよう予告いたします。

支部終年会費 五、〇〇〇円

納入先

口座番号

〇〇三七〇一〇一一九二七

鯉淵学園同窓会茨城県支部

秋田県支部総会

一月二十八日PM五時から（泊）、「サントリーラル大潟」で、本部から本宮事務局長の臨席を得て総数二四名で開催。

大潟村は大規模干拓で誕生した日本農業のモデル建設村です。出席の、その行政のトップの任につかれた黒瀬喜多村長（20期）に祝福・声援のため花束を贈ったこと。かつて村農業団体の在り方に先鞭をつけそのトップとし初代農協組合長をつとめた松本茂氏（8期）も馳せつけたこと、そしてモデル農村建設の意欲に満ちた地元同窓生多数を含め全県から参集されたことなどで意義深い集いでした。懇親会では、学園寮歌を全員で斉唱。話題は学園回顧から新世紀に生きる抱負までと話しがはずみ、お互いに終始和やかに親睦を深め合い、盛会でした。なお、県支部活動の活性化のため、支部長若返り改選の提案があったが、次回までの懸案として保留されました。



【写真説明】

後列左から 豊田正紀①、堀川喜久雄②、山本嘉子③、黒瀬喜多④、山本平男⑤、菅沼博明⑥、渡部 茂⑨、金 順也⑩、伊藤清之助⑧、上屋拓幸⑥、深澤慶吉⑮
中列左から 鈴木みよ子⑮、小嶋 宏⑮、西田貞夫⑭、松本夫人、松本 茂⑧、広島 実④
前列左から 佐々木徹子⑩、本宮好美同窓会本部事務局長⑫、大高三之助⑨、小西 三治⑩、高橋忠生⑬、村上善明⑩、八柳ふみ子⑮、斉藤藤子⑮

五期生会

「鯉淵五期生会」に三十人集う

— 長野県湯田中温泉で四月十日・十一日に開催 —



【写真説明】

後列左から 峯村、森井泉、張替、防衛、土肥、川中子、大場（敏）
 中列左から 本田夫人、川上、杉沢、楠原、小川、植田、若林、宮本、砂田、中村、黒石
 前列左から 本田、間宮、小林（茂）、丸山、熊谷、阿川、武井、杉本、黒田、花井、横田

気温三二、三度という汗ばむ陽気のなか、北は盛岡から南は宮崎まで三〇人の熟年紳士（夫人参加一人を含む）が長野駅に参集。互いに忘れかけた面影に戸惑ったり詫びたりして、しばし懐かしい体面劇を繰り広げる。

黒田邦雄氏ら地共幹事の面々が、知恵をしばって組み上げたスケジュールに従い、まずは善光寺詣で。ここから千曲川を渡り須坂を抜けて小布施町へと移動。美術館・博物館の多いことで知られた町とあって、早速その一つ岩松院に詣でて本堂天井に描かれた葛飾北斎の肉筆画や小林一茶の名句を偲ぶ庭園を見学する。

懇親会場は山ノ内町湯田中温泉。街のあちこちに湯煙が噴き出し、湯量の豊かさを思わせる。泊まりは「ホテル星川」、遥かに志賀高原のやまなみを望み夜間瀬川のせせらぎ旅情を誘う宿――

午後六時半からの宴会には、新潟県の黒石勇蔵氏持参の

『銘酒・越乃寒梅』や宮崎県の防衛克巳氏から自家栽培『日向夏ミカン』の差し入れなどがあり、懇親会はひとときわ盛り上がる。

二次会はカラオケ組や、碁盤を囲むもの、幹事室に集まって恩師の思い出話から、はては健康や老後の生活設計などを語り合うものなど、さまざまな話題で深夜まで尽きるところのない賑やかさ。

宮崎県支部総会

宮崎支部総会が四月二十一日宮崎市内で開催され二八名が出席しました。

防衛会長のあいさつ、続いて学園の近況報告があり、支部運営について協議しました。久しぶりの同窓会であったため話題も多く、予定していた時間をオーバーしての懇談会となりました。

次回から毎年開催できるよう支部体勢を整えました。

- 会長 防衛 克巳（5期）
- 副会長 日高 諦進（10期）
- 山田 洋一（10期）
- 湯浅紀久子（15期）



二日目の観光は、更埴市の「あんずの里」で、いまを盛りの花々に囲まれ記念撮影。さらに松代町へと足を延ばし、旧大本営地下壕の未完成跡を見学し、戦中派にとって感慨深いひとときを過ごす。午後一時、昼の会食後、長野駅に向かい、互いの再会を約して解散となる。

なお、次回二〇〇三年の開催地は東京に決定した。（宮本・記）

九期会富山で開催

去る五月一日・二日、富山県の庄川温泉観光ホテルに総勢五五名の同窓が参集して九期会が開かれた。

来賓として、酒井先生ご夫妻、同窓会富山支部代表の水野嘉孝(5期)氏が出



席された。来賓の祝辞の中で水野先輩の「卒業後間もなく結成当初のチューリップ組合で何もかも一人で、そして今日のチューリップ富山となった。オランダに行くこと十五回、現在も現役で活躍中」との自己紹介も含めた祝辞が印象に残った。

次回は山口県で開くことが決まった。(高橋記)

【写真説明】

前列左より

長田、岡田、清水、原田、箱石(4期)、酒井先生、水野(5期)、高橋(隆)、株田、深田、西能

二列左より

丹羽夫人、箱石、酒井夫人、富永夫人、原田夫人、三沢夫人、吉沢、仙城夫人、山本夫人、福丸夫人

三列左より

渡部、山下、鈴木、千葉、高橋(利)、仙城、田所、小泉、及川(博)、小野寺、山崎夫人、菊地夫人、及川(敬)、渡沢夫人

四列左より

福家、渡沢、根本、佐藤、樋屋、菊地、内山、山本、白上、吉岡、阿部大地

最後列左より

東山、斎藤、富永、山崎、三沢、高山、大栗田、福丸

十一期生の集い初夏の能登で開催

十一期生の集いが北陸四県(石川・福井・富山・新潟)主催により四四名が出席して盛會に開催された。竹内幹事長のあいさつ、物故者一四名に対して黙とうを続いて倉重副会長から学園と同窓会の近況報告があり、次回は卒業五十年に当たる平成十七年に、中国地方の出身者を中心となって広島で開催することを決め、事情の許す限り夫婦同伴で出席することが確認された。

なお、協会に対する寄付金についての提案があり、既に納付した方もいるがその場で四四、〇〇〇円の協力をいただき同窓会を通じて協会に納付した。

【写真説明】

前列左より 野口美千代、沖田清次、早川浩義、長谷川周弘、中野重雄、倉重一夫、佐藤一春・夫人、吉谷富美子、加藤定子、野頭夫人

二列左より 三次えい子、小川高穂、志賀陸雄、鈴木昭司、矢吹正美、加茂孝夫・夫人、大都博海・夫人、野原小石・夫人

三列左より 篠原久子、公庄連一・夫人、佐藤昭八・夫人、宮地勉、豊田治、神水敏男、大武克也、鹿又ワカ

後列左より 加瀬翠夫、中村又三、柴重男、駒崎稔、小島好文、岸本久一郎、阿部剛、藤村純一郎、野頭孝三、枝並春男、竹内敬俊、神田雄太郎



哀悼

衷心より哀悼の意を表します

大阪県支部	伊沢康 男(6)	平成九年九月	逝去
京都府支部	糸井進(通1)	平成十一年十二月	"
茨城県支部	伊藤宏一(研10)	平成十三年二月	"
山梨県支部	中込武(8)	平成十三年四月	"
山口県支部	三浦一 男(7)	平成十三年五月	"

平成十三年度

鯉淵学園人事異動

【依願退職】

教授 中島 紀一

(経営流通コース科長)

助手 藤巻 由紀子(学生食堂)

" 小野瀬 宣子 "

【定年退職】

主 事 浜田 正子(図書館)

【採用】

嘱託教授 笛木 昭

(経営流通コース科長)

" 平山 力

主事補 中島 奈穂美(図書館)

" 熊谷 隆(学生食堂)

" 沓澤 由美子 "

技術補 高橋 和幸(IJU)

" 長根山 裕也(IJU)

【名誉教授称号授与】

坪野 敏美

優良の農家紹介

安心を食べる『ブルーベリーの生産』

25期生の根本保夫さんは将来の食文化を見通して『こだわりのブルーベリー』の生産に取り組んでいる。

計画構想は、『JAなめかた』で営農指導員として勤務している当時から構想で十五年前からとり組んできた。

収穫量が年々多くなり、JA職員と生産農家の二足のわらじでは、JAにとっても、自分にとってもよくは無いと考える。十五年間勤務をしたJAを退職し、ブルーベリーの専業農家になった。

これまで農産物の流通のエキスパートとして研究してきたことを自ら実証するために頑張ったと言う。

市場出荷、直販、契約販売、オーナー販売、インターネット直販など、消費者を直接ターゲットにする割合が年々多く

書の寄贈

北村康裕氏(2期卒・神奈川県支部長)から寄贈されました。
学園長室に掲示してあります。



★題字の説明

男児志を立てて郷関を出ず。還学若し成る無くんば死すとも埋むる。骨を埋むる。人間到處有青山あり。
(作者・月性……山口県出身 1817年～1858年)

なって来たと話してくれた。

消費者が認めてくれた証左である。

これからは、『安全食品の生産に力を入れ、安心を提供すれば消費者が対応してくれるしマスコミもPRしてくれる』と根本さんは強調している。

栽培品種も収穫期の中を考慮して『ティフブルー』『ダロー』『ホームベル』など、生食用品種が主流である。しかし消費者のニーズが多様化している現在、ブルーベリーの加工食品にも需要が多



くなり対応していると話してくれた。

七〇アールのブルーベリー栽培の収穫最盛期には、家族総出で対応しているが、まにあわずアルバイトを募集するという。行って見たいな最盛期にアルバイトをしながら。

最近、根本さんは、家の光協会から『ハッピーカップル・アグリカルチャー』に選ばれ、全国優良モデル農家として全国誌に紹介された。

集落の枠越え総合産業へ

兵庫県(23期) 田中久隆

兵庫県豊岡市で一・二ha〜一・五ha規模の大区画田も整う豊岡市東部の穀倉地帯。その中心にある中谷集落、(農家戸数三三戸)は全戸加盟の集落営農組合を二年前、県内で初めて法人組織にした。四人の専従者が受け持つ耕作田集落内の計二九haと周辺集落からの請負分二二ha、さらに農作業受託分が一〇haにのぼり、経営は拡大基調にある。

集落営農の時から米の販売自由化に対応し「自分たちで売れる米づくり」を目指して、一九九三年から減農薬・減化学肥料のコシヒカリ生産に取り組んできた。しかし、米価の下落から専従の農作業オペレータの負担が重くなり、九六年から組合運営の安定化策を二年間検討。経理をガラス張りにする一方で、集落全体の経営戦略が練りやすい法人化の道を選んだ。

目標は、農業の六次産業化。生産(一次)だけでなく、加工(二次)、流通・サービス(三次)を合わせ持つ総合産業しようという考え方だ。

モットーは「農家自信がおいしくて安全と思うものを提供する」。



口コミが増えてきた米の直接販売は生産量の三五%まで高まり、顧客には盆にだんご粉一kg、正月にもち一kgを贈るサービスも。人気のもちは、さらに冬場の商品として力をいれる。

昨年一haで始めた小麦で「生うどん」を販売。三・五haでそばも生産し、但馬の専門店などに卸す一方、小売りも行っている。地元向けの盆花やトルコキキョウの栽培も始めた。「農業は、生命維持産業という面から生活者を見届けていく

ことが必要である、地域や都市の人にも農業のことを考えてもらいたい。

また、農業と農村を守る為に今後は「広域営農システムの確立と地域農業支援システムの構築」を共に考え、互いが納得できる形を一緒に造って行きたいと思う。

同窓生の皆様方のアドバイスやご指導をお願いします。

兵庫県の日本海側においての際はぜひお立ち寄り下さい。

中谷農事組合法人

兵庫県豊岡市中谷一三三十一

代表理事組合長 田中久隆

TEL・ファックス

〇七九六一二四一〇七五八



渡辺わかさん著書発行

東京11期の鹿又ワカさん(旧姓渡辺)が『夕映えは美しく輝いて』と題して少子高令化社会のなかで老いを支え、暮らしを守るには地域の助け合いが不可欠との信念で、福祉ネットワーク活動に参加して描いたある女性の感動の生さまを著書にしたものです。

※著書名は【渡辺わか】となっています。

発売所 ㈱健友館 定価五二〇円

村上市長当選

福井県(13期) 北野 祐一

本学園11期(研)卒の村上利夫氏は、平成十二年七月十六日告示の福井県小浜市長選挙に立候補し、無投票当選を果した。

氏は、県立高等農業講習所を卒業した後、農業改良普及員として現場で活躍し、昭和三十年度に現職のまま学園推挙研究室に於いて鞍田先生の薫陶を受け、再び福井県に帰り、専技、県立農業大学教授・農林水産部長を経て昭和六十二年、県会議員に初当選、三期務めその間、副議長・若狭森林組合長・県森連会長・県農業会議会長等を歴任、地元の盛り上げる熱意に応えるべく四期日出馬を見送って小浜市長に立候補した。著書に「実践農業指導論」他数冊がある。

公約は

- 一、滋賀県近江今津―福井県上中間の鉄道新線新線の建設
- 一、小浜の歴史と文化を生かした町づくり

特に御食国(みつけくに)構想―農林漁業・食品産業および水資源と環境保全―に重点を置く

一、市民の行政への参画・男女共同参画社会・行財政改革推進

一、体験学習を通して知・徳育バランスのとれた教育。生涯学習の推進

一、地方分権の受け皿づくり

が主なもので、当選早々、赤字財政克服の為「財政警戒宣言」を発令、自らの期末手当のカット、職員の採用、市長専用車の見直し等当面の課題に矢次ぎ早に対応すると共に、職員の再教育、「ちょっと待て、これでよいのか」という銘を徹底、慣例に流されず旧弊を打破する果敢な戦略を展開している。

一方で、リゾート鉄道建設は、地元七十年来の悲願であっただけに、県議時代から政治生命をかけて取り組み、市民と一体となって新線実現決起大会を盛り上げる等。

更に民間資金や技術を生かしたPFI(プライベートファイナンスイニシャティブ)の活用によって社会資本の充実を計る方策を立てている。

数々の政策課題に対して、異例とも云える市民主体のプロジェクトチームを作って民間の英知を集めると共に行政への参画の道を開いており、市民の熱意が高まりつつある。

時あたかも来年度は市制施行五十周年

に当り、記念事業を公募する一方、姉妹都市の韓国慶州市・奈良市との交流促進や、小浜城の再建、京都との直通道路の開拓や風力発電等幅広い構想が湧き上って来ている。

とかく沈滞勝ちであった小浜市に、今や村上市政が、死中に活を求め息吹きが澎湃と盛り上げて来た観がある。



同窓会費入金状況

(12. 9. 1~13. 5. 31入金分)

(終身会費)				12年~13年分			
支 部	氏 名	金 額		支 部	氏 名	金 額	
北海道通2	川上 良治	35,000		北海道通3	山崎 政治	3,000	
宮城通24	山家 賢藏	27,500		" 通4	高瀬 正美	3,000	
福島通1	郡司 輝雄	25,000		岩手 14	方賀 正儀	3,000	
福島 20	坂内 洋二	25,000		山形通5	矢野 英一	3,000	
" 54	坂神 田善	40,000		宮城通4	中鉢 英昭	3,000	
茨 城 11	神水 敏夫	22,500		茨城通3	矢野 武雄	3,000	
" 54	神野 所教	40,000		新 潟 41	小出 美智子	3,000	
" 21	弓野 智子	25,000		" 17	石角 山子	3,000	
栃 木 54	石川 美咲	40,000		新 潟 22	井上 尚謙	3,000	
群馬 13	天富 田めく	22,500		福 井 49	谷口 尚俊	3,000	
埼玉 54	富松 田亮	40,000		岐 阜 25	熊谷 尚俊	3,000	
神奈川 54	松田 昌位	40,000		福 岡 4	西 山 寿	3,000	
" 54	五野 昌満	40,000		13~14年分			
埼玉 54	猪野 澤仁	40,000		兵庫 54	門積 良幸	3,000	
長野 54	寺腰 川原	40,000		10~13年分			
富山 54	寺原 博玄	40,000		下 関 12	服部 政明	6,000	
福島 26	堀 隆典	27,500		13年度分			
福島通1	相馬 隆典	25,000		埼玉 25	鈴木 市郎	1,500	
栃 木 54		40,000					

同窓会費 (13. 6. 16)

支 部	氏 名	金 額	入金日	摘 要
茨 城 7	立見 健祐	3,000	13. 6. 5	12・13年分
石 川 5	高田 芳修	1,500	13. 6. 6	13年分
兵 庫 15	高田 修明	1,500	13. 4. 25	12年分 支部から「現金」一括入金
" 28	前山 豊明	1,500	"	"
" 28	山根 正章	1,500	"	"
大 阪 51	内八 木安	3,000	13. 5. 11	12・13年分
静 岡 9	内山 澄治	3,000	13. 6. 11	"
島 根 36	本池 藤三	3,000	13. 6. 14	"
神 戸 23	池田 清景	3,000	13. 6. 7	"

同窓会費 (12. 9. 21)

支 部	氏 名	金 額	年度会費	入金日	摘 要
京 都 2	正木 浩	1,500	12年分	9. 8	支部総会・現金
" 10	加藤 整	1,500	"	"	"
" 16	富田 淳生	1,500	"	"	"
" 19	出店 利彦	1,500	"	"	"
" 25	関根 大平	1,500	"	"	"
" 30	大平 泰正	1,500	"	"	"
" 32	岸根 秀明	1,500	"	"	"
" 36	岸田 秀明	1,500	"	"	"
" 44	武田 好弘	1,500	"	"	"
" 50	武小 彦文	1,500	"	"	"
" 11	坂田 好輔	1,500	"	"	"
" 52	中野 耕一	1,500	"	"	"
" 25	谷本 治篤	1,500	"	"	"
" 53	中橋 輝夫	1,500	"	"	"
" 31	長尾 正人	1,500	"	"	"
" 24	長峰 正人	1,500	"	"	"
" 19	芝床 正人	1,500	"	"	"
" 51	近本 犯夫	1,500	"	"	"
" 15	長瀬 輝栄	1,500	"	"	"
" 24	西浦 栄子	1,500	"	"	"
" 24	柴田 司博	1,500	"	"	"
" 20	西田 博	1,500	"	"	"
" 25		1,500	"	"	"
合 計	23 件	34,500			